

# 平成 22 年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録

- 関東・甲信・静支部 -

日時：平成 22 年 7 月 15 日（木）10：00～12：00

場所：川崎市産業振興会館 11 階第 6 会議室

（神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20）

## 1 開会

川崎市公害研究所 都市環境研究担当（事務局） 松尾清孝

## 2 挨拶

川崎市公害研究所 所長 柴田幸雄

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 高野厚

## 3 議事

### （1）環境測定分析統一精度管理調査について

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 高野厚

### （2）平成 21 年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

（財）日本環境衛生センター東日本支局環境科学部環境対策課 課長 西尾高好

## 4 特別講演

「環境測定分析におけるダイオキシン類等の簡易測定法について」

講師：摂南大学理工学部生命科学科 准教授 青笹治

## 5 ディスカッション

（事）：事務局 （参）：参加者 （助）：助言者・有識者 （環）：環境省

（事） 参加者から事前の質問事項はないので、精度管理調査、特別講演について不明な点等があれば、自由に発言をお願いしたい。

（環） 現在、環境省では環境測定分析統一精度管理調査のあり方について、見直しを行っている。参考として、各研究機関が所内でどのような形で調査結果を共有しているか、分析作業の改善に結び付けているのかについてお聞きしたい。

（参1） 環境測定分析統一精度管理調査に参加し、「はずれ値」が出ていないことを確認している。また結果報告書を所内担当者に供覧している。

（参2） 平成 12 年から精度管理調査に参加している。ダイオキシン類の分析について、「はずれ値」はないので、改善したという点はない。本庁部局で外部委託する際にラボ検査に同行し、統一精度管理調査での「はずれ値」の有無を確認し、問題があった場合は改善を求めている。他の項目で「はずれ値」を出したことがあり、報告担当者と別の分析者が行った結果とを比較し確認している。

（参3） これまで統一精度管理調査への参加はない。結果報告書を所内に供覧している。

（参4） 最近は統一精度管理調査へ参加していない。5 年ほど前に、ダイオキシン類の分析で参

加し、「はずれ値」のないことを本庁へ報告した。

(参5) 分析担当者へ結果報告書を供覧している。分析の際に、「はずれ値」の事例を参考とし、注意している。分析委託に際して、分析機関へアンケート等で精度管理調査の情報を確認している。

(参6) 昨年度の結果では、「はずれ値」はない。所内に結果報告書を供覧している。

(参7) 担当者が係内で調査結果を共有している。分析技術の向上のために利用している。

(参8) 昨年度、COD分析調査に参加した。自分自身の技術向上のために役立てている。

(参9) センター開設4年目で、参加実績は多くない。これまで「はずれ値」はない。硝酸性窒素の分析結果があまりよくなかったので、結果報告書を検討に利用している。これまでの話を聞いて、行政部局へも精度管理調査の情報提供が必要と感じた。

(参10) 分析担当者間で情報を共有している。担当者間で二重に分析するなどして、技術の向上に努めている。

(参11) できるだけ統一精度管理調査に参加するようにしている。ルーチンで実施していない分析についても、スペシャルチームを作って参加している。結果報告書等の情報を課内で共有している。

(参12) 所内の人事異動が激しく、行政から来て分析業務を担当する場合もあり、統一精度管理調査を技術向上の場として利用している。

(参13) 昨年度は新人が参加し、勉強の場とした。統一精度管理調査を通して技術の研さんを進めたいと思っている。

(事) 外部委託マニュアルのアンケートの中でも、各自治体から一般項目についての調査希望が多くなっている。一般項目の今後の計画について、御教示願いたい。

(環) 精度管理調査の在り方については、現在、アンケート調査を実施しており、その中で調査対象試料についても項目としている。23年度から5年間、どのような目的を持って精度管理調査を進めていくかを検討する中で、地方自治体職員の技術の伝承等が重要な課題となると認識している。そのため、調査対象試料の在り方についてもポイントの一つになると考えている。

(事) 検討委員の先生方に論評をお願いしたい。

(助) ばいじん中の重金属を担当した。溶出操作を含めた調査であったが、分析と溶出操作によるばらつきがカルシウムで同程度(5%程度)であった。他の金属でも同程度。これまで言われているように、溶出操作でばらつきが大きいのではと危惧していたが、溶出操作でのばらつきは危惧したほどではなかったという印象である。

(助) ダイオキシン類については、平成10年度から始まり今年度で10年余になる。全体として精度は得られてきている(向上してきており)が、異性体によってはばらつきが目立つ。民間企業の精度が維持されなくなっているという声があるが、ダイオキシン類は今年度で終了し、来年度はPCBを行う予定。

(事) ダイオキシン類の分析で、バイオアッセイの普及状況について御教示願いたい。

(助) アンケート調査等の結果ではなく、私自身の感想になるが、バイオアッセイは公定法として整理されているもののメーカー独自の製品として出しているものが多く、分析事業者が取り入れているという状況はあまり聞かない。あまり普及は進んでいないという感想を持っている。

## 6 閉会

次年度開催県：茨城県（霞ヶ浦環境科学センター）